頼光のゝ給ひけるは我らかなりはあやしくこそやくれう
かくれなき山中にたゝめはうへとも申也一霧住くんか
わうもくをしり給へさいやとのおほひられた童子
大に悦て入興し申けれは都のさけをまいらせん
これそれかりかくおもひまとゝ申されは酒やう所
まうちをとすゝめけれは童子はひとくちのミてはい
くさひきんとのむゝちぬくらんのとくぬるけにとさ
しやくにて志いあれなちりけくも十度ハかりのミ
きゝたるまの入興や童子申きゝ我さけけうの
人ありひ出て都のさけをすゝめをとそ候かこ
のさそひ此しとめ花そのくいめ哉二つ人はひぬしそて
まうら童子たちあれをさこかあり鬼ともはちかつ飲はとく
酒をくみふさかん名れハいかもよれたつこせとふつ見る
ゆやうさく見えまてのれいつ海上に面白く云ひ
さてまりきらへ鬼ともまいり給へしそれよく
我もされはいろみえとう云れかますもしもうりさし子なすそ
侍うされも寺んそくともこ申かけく都ちりかうふうかさ
女むくなり倍をるくちめんなりこまか弘法大師か小
いろまてゝりはゝぬくのとくいそのしみ申ゝり
かしゆりのりはちさてもにふ道とゆふすありしる
弘法大師と云鬼をも乳ま志めれせたれ不ま法海と